

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名「和」)

事業所番号	0670700939		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「和心」ふじ荘		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-1		
自己評価作成日	令和 5年 12月 1日	開設年月日	平成18年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、周囲を田園に囲まれ、豊かな自然環境の中に立地しています。草木を眺めながら、四季の移り変わりを楽しむことが出来ます。手作りの食事提供を行い、準備や片付けを、利用者と一緒にしています。利用者のペースで、ゆったりとした生活が送れる様に援助を行っています。入浴はプライバシーを考慮し、1名ずつゆっくりとしたペースで、実施しています。1日に、3名の入浴を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 12月 26日	評価結果決定日	令和 6年 1月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな田園風景と閑静な地域の中で福祉の拠点として、入居の相談や困りごとなどの様々な相談に対し、介護の専門性と実践力を活かしてアドバイスを行っています。近くの地域支援センターで開催される敬老会に利用者も参加して地域の方々と一緒に楽しんだり、隣接する同法人のグループホームと合同で支援センターを会場にして運営推進会議を行うなど、地域の理解を得て協力関係を築いています。コロナ禍にあっても近くの神社へ参拝したり海までのドライブや藤の花を見に出かけるなど、出来る限り利用者の意向に応え、一日一日を大切に笑顔で暮らしてもらえるように支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修室やダイニング等、目の届くところに理念を掲示することで、常に管理者と職員は理念を共有し業務を行っています。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などがあれば入居者をお連れして交流できる様に、運営推進会議等で情報を交換し、地域との関りが絶えない様に心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前のような地域との直接的な交流はありませんが、徐々に交流を深めていけるように慎重に情勢を鑑みて、地域の方々と意見交換などをしていきたいと思っています。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の行事等におけるサービス内容や、職員の研修状況、入退居状況などを、写真も添えて報告させていただきます。また、施設活動のご理解を頂けるようにご質問等にお答えし、ご意見を伺い、アドバイスを頂くことで施設としてのサービス向上に努めています。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が直接来荘されたり、運営推進会議では町内会長や民生委員、介護相談員、藤島庁舎などからご出席頂き、ケアサービスの取組みをお伝えして、地域との連携を図り、協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	研修により、施設において禁止の対象となる具体的な行為を学び、それを周知し、同時に身体拘束防止委員会において、施設内における疑問や課題を洗い出し、勉強会を行うことで学びを実践に活かす工夫に取り組んでいます。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、定期的に身体拘束防止委員会を開いて利用者の安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。職員は研修を通して内容を理解し、身体拘束のないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修により、入居者の自宅や施設内での虐待を見逃されることがないように高齢者虐待防止法について学びます。また、施設内にて発足した身体拘束防止委員会により、施設全体で注意を払い、虐待の防止に努めています。</p>	<p>虐待防止に関する指針を設け、職員は研修計画に基づいて身体的虐待や暴言・無視など心理的虐待等の研修を行い、抑圧感を招いたり不適切なケアがないように努めている。職員のメンタルケアも含め、多角的な視点で虐待防止に取り組んでいる。</p>	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の意思を代弁し、本人の生活、権利を守り、適切な支援が出来るように、関係各位と連携を図り、権利行使に努めます。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約等の説明では重要事項等、丁寧に、しっかりと説明し、不安や疑問点を解消され、十分にご理解とご納得を頂けるように努めています。</p>		
10	(3)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段より入居者やご家族からお話を聴く姿勢で接しています。また、運営推進会議には家族会として入居者のご家族を交え、ご意見を伺い、施設の運営に反映させています。</p>	<p>毎日の生活の中で利用者からの意見や要望があれば真摯に受け止めて、出来る限り応えるように努めている。家族等にも意見などを積極的に聴くように働きかけて運営に反映させるようにしている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、又ユニット会議で意見を聞き取り、反映出来る様になっている。</p>		
12	(4)	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の資格取得を勧め、個々の状況を把握し、反映できる様環境整備に努めている。</p>	<p>代表者は業務内容や職員の勤務状況と具体的実績など、職場環境の把握に努めている。質の確保と向上を目指し、職員が向上心を持って働けるように配慮している。</p>	
13	(5)	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナも沈静化し、研修への参加の機会を設け、働きながらトレーニング出来る様に努めています。</p>	<p>定期的に内部研修を実施したり、外部講師を招いて研修を行いスキルアップを図っている。職域や経験など段階に応じて学ぶ機会を与え、資格取得も奨励して人材育成に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナも治まり、又以前の様に県グループホームの研修や情報交換の機会を設け、サービスの向上に努めています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の生活していた環境や様子の記録をふまえ、要望等に傾聴し、声掛けや対応で関係作りに努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と話し合いを持ち、要望を聞く様にしています。面会や通院時にも話し合いの機会を設けています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>御本人、御家族、ケアマネでの話し合い、入居者様が必要とする支援を心掛けています。</p>		
18	(6)	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>掃除や料理、施設内の季節事の装飾を一緒に行う様に努めています。</p>	<p>常に利用者が主体であることを念頭に、本人のペースで過ごしてもらるようにしている。調理の手伝いや洗濯物の始末など、一人ひとりの出来ることを見つけて互いに協力しながら穏やかに暮らせるように支援している。</p>	
19		<p>○本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>通院等は家族にお願いしています。本人と家族の関係を大切にしています。</p>		
20	(7)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>最近になり、以前のように、面会も出来るようにはなっている。</p>	<p>その人の歩んできた人生と地域との関係や人とのつながりなどを十分に把握し、今までの関係を継続できるように支援している。利用者からの要望には家族等にも連絡をして意向に沿えるよう柔軟に対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での関りが無くならないように、一緒にレクリエーション、体操などを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者のご家族にお会いした時は、近況をお尋ねしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしの様子を、毎日の会話や関りの中から本人の希望や思いをくみ取り、出来る限り意向に添えるよう、支援に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族、施設などからの情報を多く得、本人の生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合わせた活動、調理、洗濯物たたみ、食器拭きなどをお願いし、出来る事をして頂いています。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットごとのケース会議を行い、現状把握し、課題や問題点の解決に努め、計画の見直しを行っています。	月1回のケース会議には出来るだけ多くの職員に参加してもらい、記録と併せて利用者の生活の様子を確認している。本人家族等の意向を踏まえ心身共に安定した生活を送れるように、必要な支援を盛り込んで具体的に介護計画を作成している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、一人一人の様子観察、そして変化や気づきなどをケース、介護日誌に記録し、職員全体で情報共有しています。	一日の生活の様子や出来ごとを具体的に記載し、職員間で共有している。日々のケアを通して介護計画が十分に活かされているか記録をもとに評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族に話を聴くことで、抱えている心配事を相談して頂きやすくなり、これに加え利用者様の話聞く事で、利用者本人の希望に寄り添った援助を、実践するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が収まって来てからは、地域の催しへの参加等は少ない状況ですが、利用者の必要物品購入には、利用者も同行し始めています。施設内でのレクリエーションは毎日実施し、楽しんでもらうようにしています。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は毎日のバイタル表記録をもとに、様子を情報提供書へ記入し医師からの指示を頂き、家族、職員で共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と連携し、入居者様の健康管理が出来る様な体制作りを進めている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけの医院、協力医療機関とは綿密に相談し情報交換出来る関係作りを行っている。又、入院した際は病院関係者と連絡を密にしている。	入院時には医療機関に対して本人の生活の様子や体調の変化などの情報を提供し、加療に役立つようにしている。治療を終えて再度入所する場合には医師から注意点などの指導を受け、退院後の支援に繋げている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の方針を説明し理解して頂いている。重症化した場合も本人、家族と話し合い、今後の支援方針を共有している。	終末期についての看取りはしていないことを入居時に説明しており、体調変化が見られた場合には家族等に知らせ医師の指示に基づいた対応をしている。重度化した場合には、医療機関と連携して他施設への移行や入院へのアドバイス等を行い、安心と納得が得られるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルで初期対応を把握している。地域の消防署の協力を得て、訓練も定期的実施している。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に参加をお願いしての年2回の合同訓練は、今年度は実施しています。	隣接する同法人のグループホームと合同で、年2回の避難訓練を実施し、職員の相互協力などの確認を行いながら利用者の安全確保に努めている。今後は自主防災避難訓練も計画している。	災害発生時の対策について、特に夜間帯においては職員だけの対応の限界を具体的に確認し、地域住民にも理解を求め災害発生時の協力体制を築かれるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いを尊重して、入居者様に対しての言葉遣い、声掛け等も注意して行っています。職員会議等でも話し合う機会を設けています。	入居前の経歴や生活状況を把握し、また日常を通して気づきや思いを記録し、利用者の性格や行動なども職員間で共有しながら人格を尊重した支援を行なっている。トイレ・入浴・着替えなどでも引き戸やカーテンを閉めて人目に触れないよう配慮し、プライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知る為に日常生活や過去の情報から関りの持ち方を探り、その引き出しに努めて行く様にしている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、個々の生活ペースを大切にし、その時々気持ちを尊重した支援をしています。	利用者一人ひとりの生活パターンを把握し、趣味等の生きがいや喜びを大切にしながら見守っている。また食堂や交流広場に利用者が気兼ねなく集まり、テレビ・新聞等を見たり日常の会話を楽しんでおり、職員は優しく寄り添いながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容では、本人の希望を大切にし、希望に沿った身だしなみをしています。洋服は自分で選んだり、職員と一緒に選んだり、おしゃれを楽しめる様に支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態に対応し、一人ひとりがおいしく食べられる様に工夫している。また、季節感のある食事や、果物を提供したり、食後の片付けを一緒に行い、交流の機会を作っています。	アレルギー体質などを把握し、禁忌食なども考慮し食事を提供している。食事前には飲みこみ易くするために口腔体操を行ったり嚥下障がいのある方には笛などを吹いてもらっている。季節毎の食材を使った料理を提供し、皆に喜んでもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の状態に応じた食事量、水分量の確保に努め、状態に応じた食事、水分形態に対応している。医師の指示により、食事量が足りない方には栄養補助食品を飲用して頂いています。</p>			
42	(16)	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に声掛けし、個々に合わせた口腔ケアを実施している。介助が必要な方には、職員が手伝うなど口腔内の清潔保持と、菌の蔓延防止に努めている。</p>	<p>利用者の感染症対策を含めて朝・昼・晩に手洗い、うがい、歯磨きを必ず行うように支援している。さらに協力歯科医による検診や口腔ケアも行い、口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	(17)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表を活用し、トイレの使用頻度や排泄パターンを把握して、声掛けをし、自立に向けた支援を行っている。着衣の上げ下げに不安な方には職員が付き添うようにしている。</p>	<p>オムツやリハビリパンツを使用している方でも、定期的にトイレ誘導を行なうことで汚れが少なくなり失敗回数も減少している。歩行の不安定な方には、夜間にポータブルトイレを使用してもらい、利用者の安心に繋がるよう配慮している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄表で排便状況を把握し、職員間同士、または医師とも連携をとって排便コントロールを行っている。水分を摂取する事を心がけ、運動時間を設けて便秘の予防に努めている。</p>			
45		<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の出来る事を尊重し、出来ない部分を職員が補助している。ADL低下防止に努め、見守りながら、会話を楽しんだり、安全で安心の入浴を提供している。</p>			
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ダイニングの自席や、自分の居室など、その時々状況に応じた、安心感のある空間を創る支援をしている。</p>			
47	(18)	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ケアマネに相談、報告し、ケース会議での情報共有し、職員がダブルチェックし、ミスない服薬に努めている。</p>	<p>薬の保管は別室にて管理を行い、それぞれの服用時間に併せて名前と本人確認の二重チェックをしたうえで、飲み込みまで確認をしている。利用者の体調変化など観察をしながら記録して、職員間で共有しミスの無いように対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者一人一人の好きなレクリエーション、軽作業に得意な事を取り入れ、お話ししたりしている。</p>		
49		<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナやインフルエンザ予防に配慮し、ドライブ行事などを季節ごとに設け楽しんで頂ける工夫と実践している。利用者の必要物品を、一緒に買いにも言っています。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の申し出があった物品を、購入する様になっています。品物によっては、家族への連絡を行い、同意を得るようにしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>面会時はもちろんの事、それ以外にも電話で話したり、手紙のやりとりもしています。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>案内の温度、湿度、照明の調整を行い、清潔保持に努め、玄関ホール、ダイニング、廊下に季節感の感じられる装飾を施している。</p>	<p>加湿器を使用し、朝夕や食後も窓を開けて換気しながら湿度管理も行っている。利用者一人ひとりが力を発揮して季節ごとに合わせた作品作りを行い、各フロアに行事などの写真も併せて飾り付けるなど環境作りを行なっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにてくつろいで頂いたり、静かな時間を過ごしたり、皆などで歌を聴いたり歌ったり、思い思いに過ごさせている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々に合ったベッドや衣類ケースの設置、トイレとの距離を考慮した部屋割に工夫しています。	入居時には馴染みの物を持ち込み、配置や飾り付けをして自分好みの居室にしている。職員が掃除をする際には、利用者もモップを持って一緒に手伝って清潔を保ち、その人らしい居心地の良い居室づくりを行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器の方の見守り、夜間の照明やベッド環境やポータブルトイレの設置など、個々に合わせた対応をしています。		